

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (20)



やりたいことを「自分で」みつける夏休みに

石垣小学校 校長 磯部大輔

「校長先生の話」と聞くとどんなイメージをお持ちでしょうか？

ちなみに、検索サイトで「校長先生の話」と入力すると、「エンドレス」、「倒れる」、「長い」など、それこそこちらが倒れそうな予測候補が表示されます。危ない危ない！と気を引き締めている毎日です。

さて、今日は「校長先生の話」ではなく、1 学期終業式に発行した石垣小学校だより「夢の子」からです。

本校では「夢育(ゆめいく)」を推進して「自分力」を高め、「未来を切り拓いて生きる力」の土台を身につけようとしています。そのときに大切な「自己実現力」について、人気マンガ「ドラゴン桜」指南役で教育評論家の親野智可等(おやのちから)氏がこう述べています。

～ 未来を切り拓く力を身につけるのに大切なのは自己実現力です。自己実現力とは、「自分がやりたいことを、自分で見つけて、自分でどんどんやっていく力」です。子供のころから、自分がやりたいことをたっぷりやらせてもらえた子は、この力が身につきます。しかし、今の子供たちは親に“やらされる”ことが圧倒的に多いです。習いごとはこれにしまさい、大学はここがいい、あれはいいけどこれはだめ…。このように「やりたいこと」を抑えて「やらされること」ばかりやってきた子は、「やれと言われたことはやるけど、自分でやりたいことを見つけることはできない」状態になってしまいます。

こういう人が大人になって企業に入るとどうなるか。先進各国の一流企業が求めるのは主体的な人間です。頭がいい人、偏差値が高い人、英語が話せる人ではないんです。言われたことはなんでもやります！こういう歯車人間は求められません。これがやりたい！といってプロジェクトを立ち上げられる人、どんどんプレゼンできる人、イノベーションを起こせる人が必要なのです。

親が「紹介」と「推薦」をしてあげることも大切です。親がやらせたいことより、子供に向いていそうなこと、あるいはもともと好きなことを優先的に。歴史に興味がありそうだったら歴史博物館に連れていく、魚が好きなら釣り、ゲームが好きならプログラミング…というように。でも、子供って飽きっぽいでしょう？飽きたら無理にやらせないでください。潔く諦めて、買ってしまったものは売って(笑)。たとえ飽きても、引き出しが増えるからいいんです。そして、好きなことはほとんどやらせ、応援してあげてください。親の応援は子供にとって大きな力になります。

いろいろやらせるけど続かない、辞めたら辞めグセがついてしまう…。そんな風に考えないでください。辞めグセなんて、そんなものは幻想です、昭和の価値観です。10

回辞めても、11 回目で本当に打ち込めるものを見つけるかもしれない。今の親世代のみなさんは、我慢して辛いことを乗り越えるからこそ力になる、そう言われて育ってきたかもしれません。でも今はそんな時代ではありません。昔と違って、今はインターネットでなんでも気軽に手軽に学べます。学ぶ機会で溢れています。興味があることをやってみて、核心をつかんだら次に行く。それでいいんです。～

30 日間の夏休み。コロナ禍でも、またコロナ禍だからこそできることもあります。ちょっとでも子供たち自身が興味をもったらやってみる。楽しかったら素敵だし、楽しくなかったらやめちゃえばいいんです。保護者のみなさんは、子供たちが取り組む姿を見守り、がんばったことや達成できたことを褒めて認めてあげてください。そして、やってみたいことや好きになったことが子供たちの心の

中に増えればいいなと思います。それが「夢」につながるから。そして「夢」はいくつあってもいいし、大きい小さいも関係ないんですから。

自分がやりたいことを自分で考えてやってみて、少し「自分力」が高まった子供たちと再会する 8 月 30 日(2 学期始業式)が楽しみです。

